奥野光賢氏の発表論文に対するコメント

聖　　凱*
（中国 清華大学）

奥野光賢先生は「吉蔵教学と真諦三蔵」において、『仏性論』と吉蔵の仏性思想との関係を論じている。奥野先生は真諦三蔵の『仏性論』、『摂大乗論釈』と吉蔵の『勝鬘宝窟』、『法華論疏』、『涅槃経遊意』、『十二門論疏』、『法華玄論』、『法華遊意』との比較を通して、吉蔵の仏性に対する論述と理解が、『仏性論』の「自性住仏性」、「引出仏性」、「至得仏性」と密接な関係にあることを指摘し、さらに吉蔵が「自性住仏性」を「正因仏性」、「引出仏性」を「縁因仏性」と解釈して、「以前の二を本と為す」ことを強調し、「自性住仏性」と「引出仏性」がより重要であると説明していることを指摘している。

また、奥野先生は、吉蔵の説く「已定根性の声聞」にも「根を練ること（練根）」によって成仏への道が開かれていたのであり、これは真諦訳『摂大乗論釈』の影響を受けていると論じている。したがって奥野先生は、吉蔵は声聞の「転根」を認め、いわゆる「一切皆成説」に立脚していたと推察している。

奥野先生は、すでに多くの成果を収める、日本学術界の吉蔵思想研究の大家である。本論文は明確な観点と、力強い論拠によって、吉蔵の仏性思想と真諦三蔵の教学の関係を明かにしており、深く吉蔵と摂論学派の関係を研究するのに大きな啓発を与えるものである。しかし、奥野先生は紙幅の関係からか、吉蔵の仏性思想と真諦三蔵の教学の関係に言及するのみであり、この関係について分析がなされていない。あるいは、吉蔵の仏性思想が真諦三蔵の教学に対し吸収するところが多かったのか、それとも否定するところが多かったのかという問題について、答えが示されていない。

吉蔵と摂論学派との関係とは、まず「吉蔵」という名前が真諦三蔵から

---

*清華大学哲学系副教授。

与えられたものであり、吉蔵のさまざまな著作では頻繁に真諦訳の典籍が引用されている。しかし、吉蔵と摂論学派との関係には次のような多くの側面がある。

第一に、真諦と後期摂論師の区別について、まず、吉蔵の著作中には「三蔵師」、「摂大乗師」、「摂論師」という表現があることから、吉蔵にそれらを明確に区別する意識があったことがわかる。また、吉蔵は真諦訳の典籍と摂論師の思想との違いをどのように区別していたのかという問題がある。

第二に、吉蔵と真諦三蔵の教学について、たとえば九識真妄と唯識無塵や、三性三無性と四重二諦の関係、仏性と如来蔵思想などがある[(1)]。

第三に、吉蔵と後期摂論師の思想について、これも心識、二諦、仏性等の思想に及んでいる。

第四に、吉蔵の真諦三蔵と後期摂論師に対する態度に区別があったかどうか、また一種の前提が存在していたかどうか。すなわち、吉蔵が真諦三蔵に対して肯定するところが多いのか、後期摂論師に対して批判するところが多いのか。あるいは吉蔵は無所得正観から出発し、真諦と後期摂論師に対して同様の批判的態度をとっていたのか、という問題がある。

まとめれば、本論文は私たちが吉蔵と摂論学派の関係をさらに深く研究することを啓発し、その大変良い見本となるものである。そして同時にまた私たちに多くのことを考えさせるものでもある。

注

(1) 聖凱『摂論学派研究』(下冊)、第八章第二節「第二、摂論学派と三論宗(摂論学派与三論宗)」、北京:宗教文化出版社、2006 年、577-586 頁。

(翻訳担当:松森秀幸)